観光振興対策特別委員会会議録

平成31年１月25日

場　所　第５委員会室

平成31年１月25日（金曜日）

午前10時０分開会

会議に付した案件

○協議事項

１．委員会報告書骨子（案）について

２．次回委員会について

３．その他

出席委員（10人）

委員長	黒木正一
副委員長	西村賢
委員	星原透
委員	井本英雄
委員	二見康之
委員	日髙陽一
委員	太田清海
委員	満行潤一
委員	重松幸次郎
委員	井上紀代子

欠席委員（１人）

委員	松村悟郎

委員外議員（なし）

事務局職員出席者

政策調査課主査	持永展孝
総務課主幹	木佐貫真一

○黒木委員長　それでは、ただいまから観光振興対策特別委員会を開会いたします。

本日の委員会の日程についてでありますが、お手元に配付の日程（案）をごらんください。

本日は、委員会報告書骨子（案）及び次回委員会等について御協議いただきたいと思いますが、このように取り進めてよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　それでは、そのように決定いたします。

では、早速ですが、協議事項（１）の委員会報告書骨子（案）についてであります。

お手元にＡ３版の資料が配付されているかと思いますので、ごらんください。これは、正副委員長のほうで作成しました委員会報告書の骨子（案）であります。

Ⅱ調査活動の概要につきましては、当委員会のこれまでの活動内容を体系的に整理して、章立ていたしました。

具体的には、１、県内観光資源の充実に関すること、２、インバウンド対策に関すること、３、スポーツランドみやざきの充実に関することの３つの章で構成し、それぞれごらんいただいておりますような項目に分けて、調査の内容、委員会としての意見等について記述することとしております。

そして、最後の結びのところで全体を総括したいと考えております。

詳細につきましては、書記から説明していただきます。

○持永書記　おはようございます。それでは、御説明を申し上げます。

Ａ３版の骨子（案）をごらんください。

まず、Ⅱの調査活動の概要からであります。前書きのところで調査項目設定の経緯等を整理しております。

まず、１つ目の丸といたしまして、人口減少に伴う地域経済の縮小・競争力の低下が懸念される中、地域経済の維持・活性化に当たっては、県外の人や金を県内に誘引し、県内の地域経済循環に資することが重要であること。そして、

まさに観光は本県の地域経済を力強く牽引する重要な産業として期待されること。

それから、２つ目の丸でございますが、国を挙げてインバウンド対策に注力しておりまして、来年開催予定の東京オリンピック・パラリンピック、それから2025年の大阪万博など、国際的なイベントの開催も相まって、今後も訪日外国人のさらなる増加が期待されること。

それから、３つ目の丸ですが、ことしのラグビーワールドカップ、それから来年の東京オリ・パラなどといったゴールデンスポーツイヤーズに続きまして、2026年には本県において２巡目となる国体の開催が予定されておりまして、さまざまな競技のスポーツキャンプ地として多くの受け入れ実績がある本県といたしましては、他県にはない大きな強みとして、スポーツと関連した観光振興を図る好機であること。

こうした状況を踏まえまして、当委員会では、本県での観光振興についての課題解決に向けて調査を行うという観点から、それぞれ３つの項目について調査を実施したと、こういった書き出しで始めたいと考えております。

それでは、各調査項目ごとに御説明をいたします。

まず、１、県内観光資源の充実に関することであります。

（１）といたしましては、本県の観光に係る現状と課題ということで、本県の観光に係る各種のデータ、それから取り組んでいる事業などとともに、現時点ではどういう課題があるのかというところを執行部またはみやざき観光コンベンション協会のほうから説明いただきましたので、それをもとに整理をいたします。

それから、（２）といたしまして、地域資源を生かした観光振興ですが、各地域から知恵を絞りながら、地域資源を有効活用して観光資源として磨き上げている事例について、県内・県外での現地調査で本当に数多くの調査をいたしました。これらをもとに、視察ごとのテーマに基づきまして整理をしたいというふうに考えております。

地域資源を生かした観光振興をうまく行うためには、地域資源そのものだけではなくて、やはり人というのが大事でございますので、ここも観光人材の育成ということで特出しをしまして項目立てして、現地調査で訪問しました各地の人材育成ということで、（３）として整理をいたしております。

以上を踏まえまして、県への提言として、以下のように整理いたしました。

まず、①といたしまして、委員から出ました意見、調査先でのやりとり、それから参考人として招致いたしました山田桂一郎先生からの意見聴取などをもとに、次のように整理しております。

地域全体で地域資源を発見し磨き上げることは、みずからの地域に誇りを持つとともに、持続可能な地域づくりの原動力となる。地域資源を活用した魅力ある観光は、観光関係者だけのものではない裾野の広い産業であることを地域全体で共有認識し、観光関係者と地域住民や地元の多様な産業が連携・協力して行う観光地づくりを支援すること、としております。

②といたしまして、現地視察を行った延岡市の島野浦未来会議、それから岐阜県飛騨市の株式会社美ら地球などを例にしまして、地域資源を生かした観光振興を行おうとする団体は、地元を大切にして非常に意欲的な取り組みを行う一方で、事業が軌道に乗るまでは人的にあるいは財政的に脆弱なことが課題としてありました

ことから、②のように示しております。

地域の民間団体が観光振興に取り組む際、立ち上げ時点では人的・財政的基盤が十分でないこともあるため、ニーズを的確に把握し迅速にサポートすること、としております。

それから③ですが、参考人で招致しました山田先生が説かれておりましたマーケティングの重要性、それからひなたカードといった例がありましたので、そこでデータを活用するようにということをアドバイスいただきました。これをもとに次のようにしております。

③観光客が個人化・多様化する中で精密なマーケティングを行うためには、各個人の動向を示すデータが必要であるため、効率的にデータを収集し、活用・分析ができる環境を整備すること、としております。

④といたしましては、現地視察を通して未来の観光人材ですとか現場の観光人材など、本当にさまざまな観光人材を育成することが重要であるということがわかりましたので、④観光人材育成については、これまでも観光みやざき創生塾を着実に実施してきているが、今後も個人旅行客の増加やニーズの多様化の傾向が強まることを踏まえ、これに対応し観光客の満足度を高められるよう、より多層的な人材育成を行うこと。

以上、４点をここでは提言したいと考えております。

それから、資料の右に移りまして、２のインバウンド対策に関することであります。

まず、（１）インバウンドを取り巻く本県の現状ですが、執行部から説明がありました本県における外国人旅行者、それから国際航空路線の状況、クルーズ船の状況、もしくは交通機関を活用した県内周遊促進の状況等について記載をしたいと考えております。

それから、（２）といたしまして、現地調査で訪問しました熊本県八代港、それから先ほども出ました、岐阜県の株式会社美ら地球での調査内容や意見交換について整理をしたいと考えております。

これらを踏まえまして、（３）の県への提言として、以下のとおり整理をしております。

まず、①といたしまして、各委員より、インバウンドにおいてはしっかりターゲティングを行うべきだという御意見があったこと、また現地視察においては、株式会社美ら地球が、外国人のターゲティングを明確にして実際に成功しております。それから、鹿児島県旅行業協同組合からは、宮崎県の組合とはこれまで余り交流がなかったという御意見があったり、また鹿児島県庁にてインバウンドのことでお話を伺った際には、東九州自動車道を利用して北部九州から鹿児島まで引き込もうという大胆な作戦などが紹介されたところであります。

こういったことを踏まえまして、次のように整理しております。

①訪日外国人の国によって滞在日数や動向が異なることから、観光客の要素に応じて戦略的にターゲティングするとともに、官民挙げて隣県や九州内での連携を深化させ、本県も含めた広域的な観光ルートの創出や積極的なプロモーションを行うこと、としております。

②といたしまして、インバウンドに係る環境整備をより促進するべきであるという委員の御意見、それから八代港におけるクルーズ船の観光客の地元商店街での消費活動に係る事例をもとに、次のように整理しました。

②多言語対応やＷｉ－Ｆｉ整備、キャッシュレス決済、二次交通を初め、訪日外国人が県内を

周遊・滞在しやすい環境整備をさらに促進するとともに、観光客の消費行動が地元に経済効果をもたらすような仕組みとなるよう支援を行うこと、としております。

③としまして、宮崎に来てくれというだけではなくて、積極的に海外交流を図って人間関係を大事にしてこそお互いの相互交流が促進されるという御意見が委員からありましたので、これを踏まえまして、③国際航空路線の維持・充実を図るには、インバウンド同様にアウトバウンドを促進させる必要があるため、官民を挙げて、スポーツ、教育、経済等さまざまな分野での国際交流に積極的に取り組むこと、としております。

④といたしまして、国がインバウンド対策を進める中で、どこの県も同じような形で分析や対策を行っているのではないかと、宮崎は今までと違った視点で独自性を持って考えていかなくてはいけないのではないかという委員からの意見がありましたので、④東京オリ・パラや大阪万博等の国際的イベントが続き、インバウンドのさらなる増加が期待される中、他県も観光振興に注力することが予想されるため、官民で連携しながら観光に係るデータや施策・予算等を他県と比較・研究し、本県ならではの効果的な観光施策を打ち出すこと。

以上、４点を提言していきたいと考えております。

最後に、３、スポーツランドみやざきの充実に関することであります。

まず、（１）スポーツランドみやざきに係る現状と今後の展開ですが、執行部から説明がありました、スポーツキャンプの受け入れ実績、それからスポーツ観光の実態調査、スポーツランドみやざきの今後の展開等について記載したいと考えております。

（２）のスポーツキャンプの受け入れについてですが、調査で訪問しました宮崎市、日向市での調査内容、意見交換等について整理をいたします。

（３）本県の特性を生かしたスポーツ観光についてですが、同じく現地調査いたしました日向市でサーフタウン構想の調査内容、意見交換がありましたので、それを整理いたします。

それから、（４）他県の国体に係る取組ですが、現地調査で訪問しました福井県、鹿児島県それぞれの調査内容、意見交換について整理をいたします。

以上を踏まえまして、県への提言といたしましては、委員から出ました意見、調査先でのやりとり等をもとに、次のように整理いたします。

まず、①ですが、委員から、今後スポーツキャンプの受け入れをさらに伸ばすには全県化が必要ではないか、または、キャンプに当たっては継続的な人間関係が重要になってくる、それから、地元の人たちがキャンプを応援するような環境が大事だといった御意見がありましたことから、これをもとに次のように整理しております。

①スポーツキャンプのさらなる誘致に当たっては、各市町村と連携して全県化・通年化・多種目化に向けた環境整備について検討するとともに、施設や気候条件といった可視的な要素に加え、チームとの人脈や地域全体の熱意ある支援も重要であるため、官民挙げて各チームとの丁寧な関係づくりを継続的に行うこと、としております。

②といたしましては、執行部や日向市から説明がありました、サーフィン観光客の実態や、サーフィンは地元にお金を落としにくい一方で

環境整備等でコストがかかるため、何かお金を落としてもらう工夫が必要ではないかというような意見が委員からありましたので、次のように整理しております。

②2017年に開催されたＩＳＡ世界ジュニアサーフィン選手権や2019年開催予定のＩＳＡワールドサーフィンゲームス等により、本県のサーフィンに係る良好な環境は世界中に認知され、国内外からのさらなる集客効果が期待されるため、これを好機として、サーフィンを通した観光消費額をさらに高める仕組みについて検討すること、としております。

③といたしまして、スポーツの国際大会の誘致に当たっては、施設基準についてもしっかり検討いただきたいという意見の要望等がありましたので、これを踏まえまして、次のように整理しております。

③県内の主要な体育施設の更新・改修等を行う場合、将来の国際大会の誘致を視野に入れ、各種目の国際基準を満たすような設計について検討すること、としております。

④といたしまして、現地の視察を行いました福井県や鹿児島県におきまして、国体の競技場など競技環境もさることながら、輸送、駐車場、宿泊等について準備や運営が課題であった、もしくはこれから課題となるという御意見がありましたので、次のように整理いたしました。

④国体においては、各体育施設の競技環境と同様に、宿泊や輸送体制等、円滑な大会運営も国体開催以降のスポーツ大会誘致に向けたレガシーとなるため、東京オリ・パラ、過去の国体等を参考に、本県開催での大会運営上の課題やその対応策を早期から研究・検討すること。

以上４点を提言したいと考えております。

Ⅲ結びでありますが、それぞれの調査項目での提言を総括として結びとし、Ⅳ資料として、調査活動の経過を整理したいと考えております。

長くなりましたが、説明は以上でございます。

○黒木委員長　正副委員長案についての説明は以上でありますが、委員の皆様から御意見はありませんでしょうか。

○井本委員　県内観光資源の充実に関することで、確かにここではそんな話は出らんかったかもしれんけれども、岩切章太郎さんがやっぱりあれだけ宮崎を本当に立派なものにした。温故知新という言葉があるんですよ。昔と同じことをやれとは言わんけれども、彼がどういう切り口でどういうふうにやったのか、ということですよ。やっぱり我々はもうちょっと勉強してもいいんじゃないのかな。私は勉強する機会がなかったかなという気もするんだ。あの辺をもう一回、彼のアプローチの仕方というか、そういうものを勉強してもよかったんじゃないかな。まだあと一回あるから、そんときにもう一回勉強会でもいいんだけれども。もうちょっとその辺を私は報告書にも出るような、色として出してほしいなって、私としてはそんな気がするんです。せっかく、こんな宮崎を、こんな宮崎といったら怒られるけれども、あれだけ日本中が本当に熱狂した時代があったわけですから、あれをあんなふうに持っていったあの岩切章太郎さんの、あれと同じことはできんと思うんですよね。でも、あんたたちもどういうふうにしたら、この宮崎を売り出せるかという、そういうやり方というのがやっぱりあるだろうという気がするんだね。せっかくいいモデルがあるんだから、もうちょっと彼を勉強しなきゃいかんかったかなと、今ごろになって言って申しわけないんだけれども、そんな気がするんです。

それともう一つ、インバウンドに関してです。

いろいろ説明あったけれども、インバウンド、外国人の話を聞くと、どうもインターネットでやっぱり情報を取り入れとる、というのがどうも多いようですので、そのインターネットによるところのインバウンド対策というのは、この文章の中ではどこ辺にあるわけですか。

○持永書記　この中でいいますと、提言の②でございますが、多言語対応やＷｉ－Ｆｉ整備等というところでございますけれども、多言語対応というのが、例えば宮崎に来てからのいろいろな表示されるような御案内の案内板ですとか、そういったところも含めてだったんですが、それに加えまして、今、井本委員が言われましたいわゆるインターネットの部分というところ、情報発信も含めてというところで、ちょっと含めて考えておりました状況でございます。

○井本委員　言葉としてもう少しはっきり出してもいいような気がします。

私の感じとしては以上であります。

○黒木委員長　ありがとうございました。井本委員がただいま言った御意見に対して、何か関連してありましたらお願いします。

○星原委員　今、井本議員が宮崎交通の岩切章太郎さんの話が出たんだけれども、私はそのあとを引き継いだ佐藤棟良さんのシーガイアの施設、ゴルフ大会ももう40回開きましたよね、国際会議とかも。あそこにラグビーが来て云々とかいろんな話もある中で、宮崎にあの施設がなかったら、今ごろどういう宿泊施設で、いろんな会議や国際会議とか開けているのかな。だから、その次にどういう人が出てきて、どういうことをやるかだけれども。私は大淀河畔のホテルが全部マンションに変わって、ホテルがなくなってきて、観光宮崎というには、本当にそういう宿泊施設も足りないんじゃないかな。

それともう一つは、やっぱりこれから見る観光じゃなくて、体験型のいろんな観光に仕向けていかないと、一回行ったところには我々も、もうあそこは行ったよということで行かないわけで。これからの宮崎としてスポーツランドなんかをうたっているんですけれども、これは春先も今んところじゃ、どっちかといえばキャンプ目的。これを一年中そういう施設を活用させるために、どういうことに使っていくかということとかをやっぱり考えていかないと。投資する人たちも、一、二カ月の間だったらホテルをつくろうといってもなかなかできないだろうなというふうに思うんで。やっぱり県内にこれだけいろいろスポーツ関係で取り組んできた以上は、一年中何とかそれを生かせるようにするためにはどういうふうにして誘致していくとか、やっぱりそういうことに取り組んでいかないと。これから人口減少が進んで、国内だけじゃなくて海外からでもやっぱり来てもらえるような形とか、いろんなものをもうちょっと取り上げていかないと厳しいのかなと。

今から10年後のことを考えて何をすべきかということを、我々の委員会としては、10年後の宮崎の観光がどうなっているのかなということを想定して今提言していかないと、どこかその辺を考えないといけないんじゃないかなという気がするんです。

それともう一点が、やっぱり今出たアウトバウンド、インバウンドの関係で、この前私はチャイナエアラインの会長に会ってきたんですけれども、最終的に言われたのは、アウトとインが五分五分。台湾から日本には400万人以上行っているのに、日本からは200万人しか来ていないですよ。何を言いたいかというと、人口は日本の５分の１なのに、そういうことですよ、という

こと。相手に求めるんであれば、やっぱりこちら側もそれなりのやり方、ここに書いてあるようにスポーツとか教育とか、あとは経済とかって入っているから、そういうことに、我々のほうも県民に対してもいろんな角度で啓発していくというか、そういう相互交流ができやすい雰囲気をどうやったらつくれるのかというのを思っている。

極端な話をいえば、私はやっぱり観光みやざき未来創造基金の20億円をどう使うのかというのが一つの大きなテーマになると思う。ある人には言ったんだけれども、中学生か高校２年生ぐらいがいいのかな、県内の全学校の子供たちが外国のどこかと姉妹校でも結んで、それで10人ずつでも交互にやりとりして、その人材づくりにも生かすために国際感覚をやっぱり身につけて、自分たちが10年先には、今インターネットが出てるけれども、世界の情報が流れているわけですから、そういうことに思い切って使って、交互交流が将来できるようなそういうものでも考えるとか、何か打ち出していかないといけない。宮崎の自然で勝てるかというと、まだよその国のほうが良い、というところもあるし、食べ物で呼び込むといっても、そういうものをどこまで宮崎の特徴あるものを出していくかとか、やっぱりいろいろあると思う。そういうことをやっぱりこの委員会としてどこまで勉強したかによるんだけれども、10年後の宮崎観光を何らか考えたときに、こういうことに今から取り組んでおかなくちゃいけないんじゃないか、ということぐらいが出てくれば、そういうことを少し入れておくべきじゃないかなという気がするんです。一応そういう感想です。これはこれですばらしくいろいろやったことが述べられているんですけれども。

○井上委員　星原委員から出た話で、先日１月23日に日本語を教えていらっしゃる韓国の先生方がお見えになったんですけれども、やっぱり日韓問題とか今いろいろあるせいかもしれないけれども、学校間同士の交流というのがなかなかうまくいっていないということを言っておられました。今、受け入れていただけるところが非常に少ないということです。東京、大阪にはよく行くけれども、地方に行ったことがないからということで、宮崎に。宮崎国際大を中心として、私も受け入れさせていただいたんですけれども。議長も会っていただいて、そのときにやっぱり議長に対してもそのことを言っておられました。先ほど言ったけれども、なかなか学校間同士の交流がない。

そして、日本のことを知る子供たちが間違ったことをインターネット上で、ＳＮＳもそうなんでしょうけれども、それを見て、日本ってこうか、というふうに間違った情報を受け入れている場合も非常にあるんだそうですよ。それで、先生方がそれを訂正というか、実は日本はそうじゃないですよということを先生方も子供たちに伝えるということをちゃんとしないといけないということもあって、なおさら日本に来るというようなことです。

議長がおっしゃっておりましたが、韓国の方というのは、大体７人に１人は、日本に来るというような状況なんだそうです。だから、一方的な情報だけで子供たちが間違った情報を仕入れたりされると、やっぱり将来的にずっと残っていく可能性というのはあるので、実際、顔を見て交流しながらじゃないと、やっぱり国際交流というか、言われたグローバルな感覚というのはなかなか生まれないのかなというのはすごく感じました。

以前は第二外国語というと、日本語を選ぶ人が最近までは70％ぐらいで非常に多かったそうですけれども、今30％ぐらいに落ち込んでいるんだそうですよ。

だけれども、やっぱり日本と韓国は仲よくしないといけないというふうな思いもある、とその日本語の先生たちはおっしゃっておりました。だから、どこにアプローチした場合に、そのことが生徒間交流というのがうまくできるのか、そういうことを宮崎側も考えていただきたいということをこの前言っておられました。

だから、子供のときから行ったり来たりしていたり、食事にもなれ親しみ、言葉にもなれ親しんでいっているうちに、そういうものが生まれていくのかなというのは本当に感じるので、やっぱりそういう民間的な受け入れと、それから学校間の交流、姉妹校同士になるとかですね、ああいうのって非常に将来的にも大きく役に立つんじゃないのかなというのは本当に実感しました。

先日、１月23日に来られて、議場とかも見ていただいて、そして商工観光労働部が持ってきてくれたＤＶＤは十分に宮崎の美しさ、観光も含めて入っており、スポーツ関係も含めて全部見せたら、本当に宮崎ってすばらしいということを言っておられました。だから、やっぱりそういうことの一つ一つを丁寧にやるというのは大事なのかな、と非常に思いました。

○星原委員　もう１点、話が出たんでもう一つ紹介しておくと、去年の11月に台湾の台中市で花博覧会というのがあって、串間市の島田市長が一緒に来られて、福島高校、全校生徒が300人ぐらいですかね、規模が小さくなっているんですが、どうしても外国と交流したいと、台中市の市立の学校を視察した。台中市立の学校は3,000人ぐらいの生徒数がおるところで、台中市の280万人の人口の中でも３番目に入るぐらいの学校なんですけれども、そこを紹介したら、この前、先週かな、教育長と会ったら、福島高校の12人が、何かそういう予算をつけて、先生と台湾に行ったと。教育長も行けばいいんじゃないかと言ったけれども、そういうことでやり出そうとしているんですよね。

だから、その20億円の基金の生かし方として、ただいろんなところに補助金を出すのがいいのか、全県内の公立、県立、私立の学校に幾らかずつやって、10人でも行かせて刺激を受けさせたほうが、10年先はいろんなことが生まれてくるんじゃないか。すぐには答えは出ないかもしれんけれども。早速、福島高校は市のお金で国際交流させよう、ということに取り組もうとしているんですよね。だから、できるところとできないところじゃなくて、県内全部の子供たちが交代ででも、10人でも向こうからとこっちからと交互にでも行くとか。

何かそういうことでもないと、今、経済交流といって、宮崎のものを外国に持っていって売るといっても、今、肉でもほかのものでもなかなか厳しいんですよね。特徴あるものというとシイタケとか牛肉とかそんな話ぐらいで、あとは焼酎もなかなか厳しい状況で。だったら、人と人との交流でまずいろんなつながりを持たせるような何かをさせる。そういう時代に来ているんじゃないかな。だから、全県内の高校生あたりをそういう形で、韓国であれ、中国であれ、どこでもいいんだけれども、姉妹校に流してやるぐらいのことをやってもいいのかなという気がするもんですから。やっぱり何か少し角度を変えたものもどっかにこれから打ち出していってもいいのかなと私は思うんですけれども、皆

さん方の意見も聞いてでしょうけれども、時代背景としては、そういう気がするんですよね。

○黒木委員長　今そのような意見が複数の委員から出ておりますけれども、ほかの皆さんの考えはどうでしょう。（発言する者あり）この中のどこの部分で意見を強く言うかですよ。そういったものを意見を聞いて、必要であればそうする。

○星原委員　だから、国際交流とかある中に、やっぱりちょっと組み込んでいくとか。そうでなければ、これをこのまま出してもらって、細かいところはもう見るしかないわけで。

だから、きょうの会議がどこまでその辺のところを受け入れるのか、受け入れないのか。でき上がってそのまんまをやるというなら、報告書の案をもらって、どこか文字の入れ方とかだけをチェックするとか、添削だけをね。それならそれでもいいし、どっちでもいいんだけれども、それはそれとしてね。

○黒木委員長　先ほど言いましたように、御意見を踏まえてそして報告書をつくるということですので、きょう意見が出たら、皆さんがここは強く言ってもらったほうがいいということだったら、これにまたつけ加えるなり強くするなりして報告書をつくりたいというふうに思います。

○星原委員　でないと、国際化の問題でいえば、香港の航空定期便が中止になって、台湾は４月から３便が２便になったんで、宮崎がそういう面では少し（「韓国もですよね」と呼ぶ者あり）、韓国は冬場だけがふえるだけで、また減っていくわけで。だから、九州内でも外国からの誘客が一番少ないです。佐賀県よりも少ない状況なんでね。だからそれを解決するために何かやっぱり考えていく。本当に観光宮崎とかスポーツランドで県外、海外から来てもらうために、何がよその県と違って欠けているのか。我々は県内がふえたとかどうだとかって話を聞いているけれども、もう日本国内が訪日外国人が2,000万人を超えて、割合からいったらふえていないのは当たり前のことであって、執行部はほかとの比較を言わずに、宮崎県は前年比何％伸びましたとか言っているんだけれども、人口比が同じぐらいの他の県と比べたときにどうなのかというと、宮崎は多分落ちている。落ちている原因が、ホテルが少ないのか、見るものがないのか、食べるものがないのか、遊ぶところがないのか。何が欠けているのかというのをやっぱり今後提案していかないと、特別委員会をつくって調査したことにならないという気がするんですよね。要するに比較することだけじゃなくて、これからに向けて、やっぱり我々委員会は提言していかないと、欠けている点をこうすべきじゃないか、あるいはこういうふうな予算をつけるべきじゃないかとか、やっぱりそういうふうに持っていかないと、特別委員会のつくっとる意味がない、そこだけはね。

○黒木委員長　ただいまそういう意見がありました。ほかに皆さん、そういう考えに対してどういう考えでしょうか。

今の星原委員の意見は、結局、教育交流とかそういったものをさらに将来を見据えて強力に進めるべきであるということ。

○星原委員　私はそれは入れてほしいなと思います。人材育成とやっぱり国際的な試合を入れるとか。国際交流をうたうなら、宮崎県も平成25年から東アジア経済交流戦略をうたい、平成28年からグローバル戦略をうたって、大きく柱に掲げているけれども、どういう成果が出ているのかというとなかなか見えてこない。見えない原因が何なのか。劣っている原因が何なのか。

やっぱりある程度は将来これから５年先か10年先かわからんけれども、それぐらいのところに向けてやっていかないとやっぱり厳しいのかなと。

○井上委員　星原委員が何度も言われるように、予算のつけ方も含めて、やっぱり経済効果というのが上がらないとだめだと思うんですよね。お金が循環していると。だから、通過点としての宮崎にするのか、やっぱり宿泊含めて観光として、業として見れる。それがないと、なかなか業として成り立たないんじゃないのかなと思って、本当に通過するだけばっかりだったら、それはなかなか解決になっていかないと思うんですね。しっかりと観光業としての業をきちんとさせるということは大事なんじゃないか。

だから、さっき何度もおっしゃったように、アウトバウンドも含めて、インバウンドばっかり求めるんじゃなくてアウトバウンドも求めるとすれば、県民の皆さんがやっぱり自分も観光していくというか、海外にも行けるような状況をつくり上げる、誘導していくということはすごく大事なことだと。行ってみるとまた楽しくて、また違う視点で宮崎県のこの施策を具体的に県民の皆様が受け入れていただけるようになっていくんじゃないかな。行ったことがないと、なかなか観光業の大切さみたいなのというのはわかっていただけないと思うんですよね。

よくさんさんクラブに行ったときにも言うんですけれども、行ってくださいと。もうお金を使っちゃってくださいと。そしたら将来の子供たちのためになるので、お金を使ってくださいという話をよくするんだけれども。

○黒木委員長　ほかに異議がないようでしたら、星原委員が言ったことをどこかで強調して入れるということでよろしいですか。

○井本委員　今のインバウンドは、やっぱりビザが簡単に出るようになったのが一番大きな原因なんですよ。特に日本が急に魅力的になったわけでも何でもない。今までどおりなんだけれども。だから、要するにビザをぱあっと出して、もう一つは円安ですね。この２つが一番大きな原因。だから、ずっとふえるのはずっとふえるんだけれども、いずれ私は頭打ちが来ると思うんですよ。その後が問題で、今度はリピーターがどうなるかですよ。今来た観光客が、もう一回あそこへ行きたいというところがどこになるかということに、私はなると思うんですよ。そのときに宮崎に来たいという、泊まってみたいというような仕掛けをせんと、私は単に１回来るだけで終わってしまうんじゃないのかなって気がするんですね。

やっぱり何度も言うように、私なんかも世界をずっと世界60カ国を２年間で放浪してきて、行ってみたいなと思うのは、やっぱりそのときの触れ合いというか、あの人にもう一回会ってみたいなというかね、景色は景色で本当にきれいなんだけれども、あの人とあそこへ行ったら気持ちが落ちついたなというような気がするんですね。私は宮崎県人はそれを十分持っとるような気がするんですよ。だから、その辺を何かうまいぐあいに出せたら、私は宮崎県も結構いい線いくんじゃないかなと思うんだけれどもね。

○日高委員　人と人とのつながりってなると、一番いいのがホームステイなんですよね。ホームステイを確立することによって、すごく大きな……

○井本委員　そうだね。今民泊というけれども、ホームステイのほうがずっといいよ。民泊よりいいよ。だから、宮崎県はもう民泊は飛び越えて、ホームステイをやる。

○日高委員　ホームステイ、やっぱり家族みたいになるんで会いたくなりますもんね。やっぱり星原委員、皆さんおっしゃるように、人と人なんで、どこか外国に行くとなると、知り合いの方がいるところに行きたくなるんで、それは大きいのかなと思います。

○井上委員　私の孫が今宮崎西高なんですけれども、２年生なので、修学教育旅行はオーストラリアだったんですよ。そしてホームステイです。そしたら、それまでは非常に日本にいるということだけを考えているような子だったのが、やっぱり行ってみると、物の考え方、生活の仕方、感覚というのが違うので、将来向こうの大学に行ってもいいなとか、何か感覚が違ってきたというのは、孫に会っているとそこが違ってきているんですよね。そのときのホームステイのときのパパとママがどういう家庭の環境かというのは大事なんでしょうけれども、たかだか何日間かしか行っていないのにもかかわらず、やっぱりそれは非常に効果があったというかですね。自分のリスニングも随分変わってきて、感覚が非常に変わってきている。

だから、星原委員が何度も言われるように学校間交流とか、ああいうので非常に変わってくるんですよね。絶対また行こうというふうに本人が言いますから、向こうの大学に行きたいなと。シドニーでもどこでもメルボルンでもいいんだけれども、どっか行きたいとかって言いますもんね。高校２年生の多感なころに、そういう学校のカリキュラムで、国内と外国とで選択だったらしくて、オーストラリアに行ったそうなんですけれども、大事だと思います。ホームステイとかその受け入れがうまくいけば、それは非常にいい交流になる。

○星原委員　学校は台湾のほうが進んでいるよ。この間行った高校なんていうのは、大学でとるぐらいの４カ国語をやる。要するに中国語と英語は基本になっていて、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語から２つ選んで４カ国語選択。日本よりも学びたいと向こうは言っているけれども、逆に日本の人たちが行って学ぶような形になるぐらい進んでいる。だから、国際交流をいうなら、そういう刺激を受けさせるようなこともやっていかないと意味がないと思う。

○井上委員　韓国の子供たちは、今、第二外国語は中国語をとっている子が多いんだそうですよ。やっぱり経済問題ですよね。それとアラブ語もすごく多いんだそうですよ。それはなぜかというと、単位がとりやすい、点数がとりやすいので、アラブ語とかあっちの言葉をとっているんだそうですけれども。今、経済が全てを規定するから、中国語を学ぶ子供たちが多いということはあるとは思うんですけれども、やっぱりそういうホームステイしたり、学校間交流したりして身近にそのことを感じたりすると随分本当に変わってくるし、また行こうという気持ち、リピーターの気持ちというのが全然違うね、子供のときからのはね。

○星原委員　あとは県民が今パスポートを何％とっているかなんだけれども、毎年１％ずつでも２％ずつでも目標を掲げて上げていくとか、何かそういうことで外国に対する芽を広げていくとか、やっぱり我々１年間やってきた中でそれはそれ、いろんなことを学んだことは学んだことなんだけれども、今後に向けてそのことをどういうふうにつないでいくかということも、最終的にまとめて何らかの形で打ち出していかないといけないのかな、という気が私はするんだけれどもね。

○黒木委員長　いろいろ意見が出ましたが、こ

れは報告書ですから、なかなか小さいことは盛り込めない。済みません、基本的にやっぱり教育交流とかそういったものをしっかり進めて、未来への投資をすべきだというようなことを入れるということでよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　ほかにないでしょうか。いろいろあるとは思いますけれども。

それでは、ただいまの御意見を踏まえながら、委員会報告書（案）を作成してまいりたいというふうに思います。

報告書そのものにつきましては、正副委員長に御一任いただき、案ができ上がりましたら、印刷のスケジュールの関係で個別に御了解をいただきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　それでは、そのような形で進めさせていただきます。でき上がりました報告書は、ほかの２つの特別委員会の分と合冊して、２月定例会の最終日に議場で配付することになりますので御了承をお願いしたいと思います。

次に、協議事項（２）の次回委員会についてであります。次回委員会は、２月定例会中の３月13日水曜日の開催を予定しております。次回委員会では、委員長報告の案について御協議いただきたいと思います。

次回の委員会について、何か御意見等はございませんでしょうか。

○井本委員　一回、岩切章太郎さんについて、誰か専門家というのがおるかどうか知らんけれども、彼の哲学みたいなもんがあると思うんですよね。それを一遍ちょっとみんなで学んでみたらどうかなと。私が受けた印象とみんなが受けた印象とまた違うかもしれんから。私はこんなふうに受けとめたけれども、彼の本を２冊読んでみて思ったけれども、恐らく皆さんもまた違う印象があるだろうし。だめかね、岩切章太郎さんの勉強会、もう遅いかな。

○黒木委員長　ちょっと休憩します。

午前10時45分休憩

午前10時50分再開

○黒木委員長　委員会を再開します。

ほかに御意見はありませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　それでは、ないようですので、最後になりますが、協議事項（３）のその他で、委員の皆様から何かございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○黒木委員長　それでは、次回の委員会は、３月13日午前10時からを予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、本日の委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前10時51分閉会